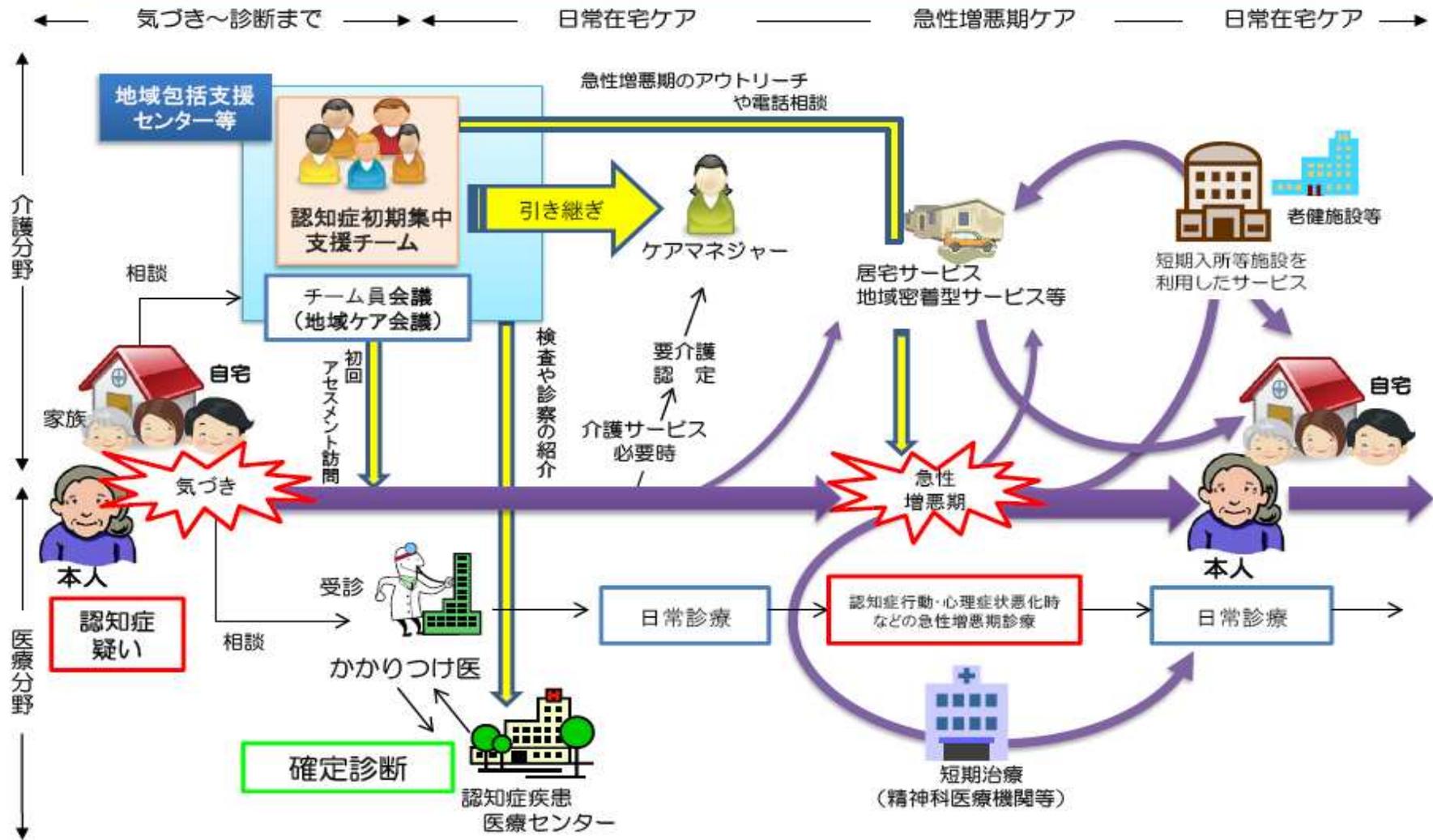


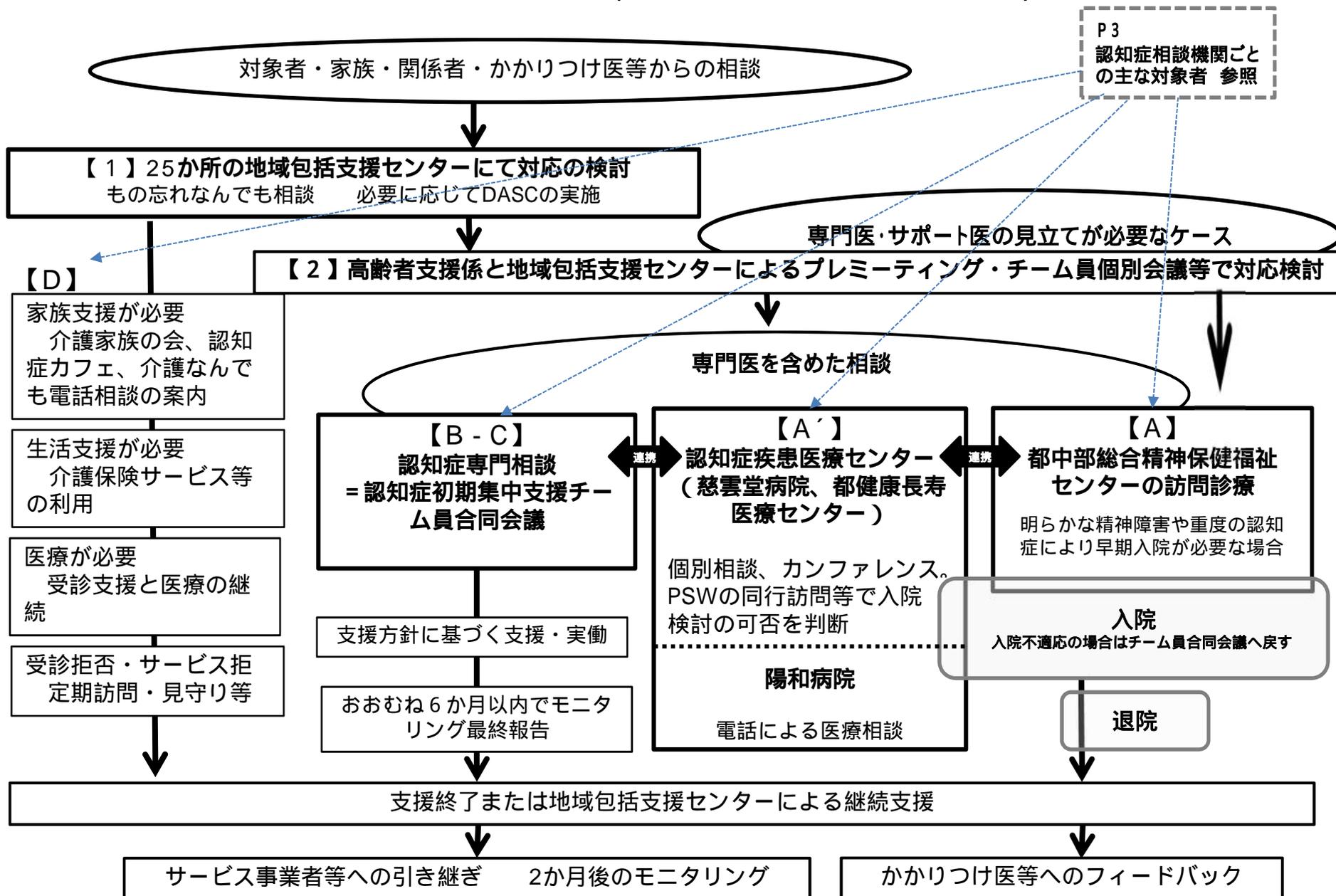
# 練馬区の認知症施策について ～ 専門病院との連携～

# 標準的な認知症ケアパスの概念図 ～ 住み慣れた地域で暮らし続けるために ～



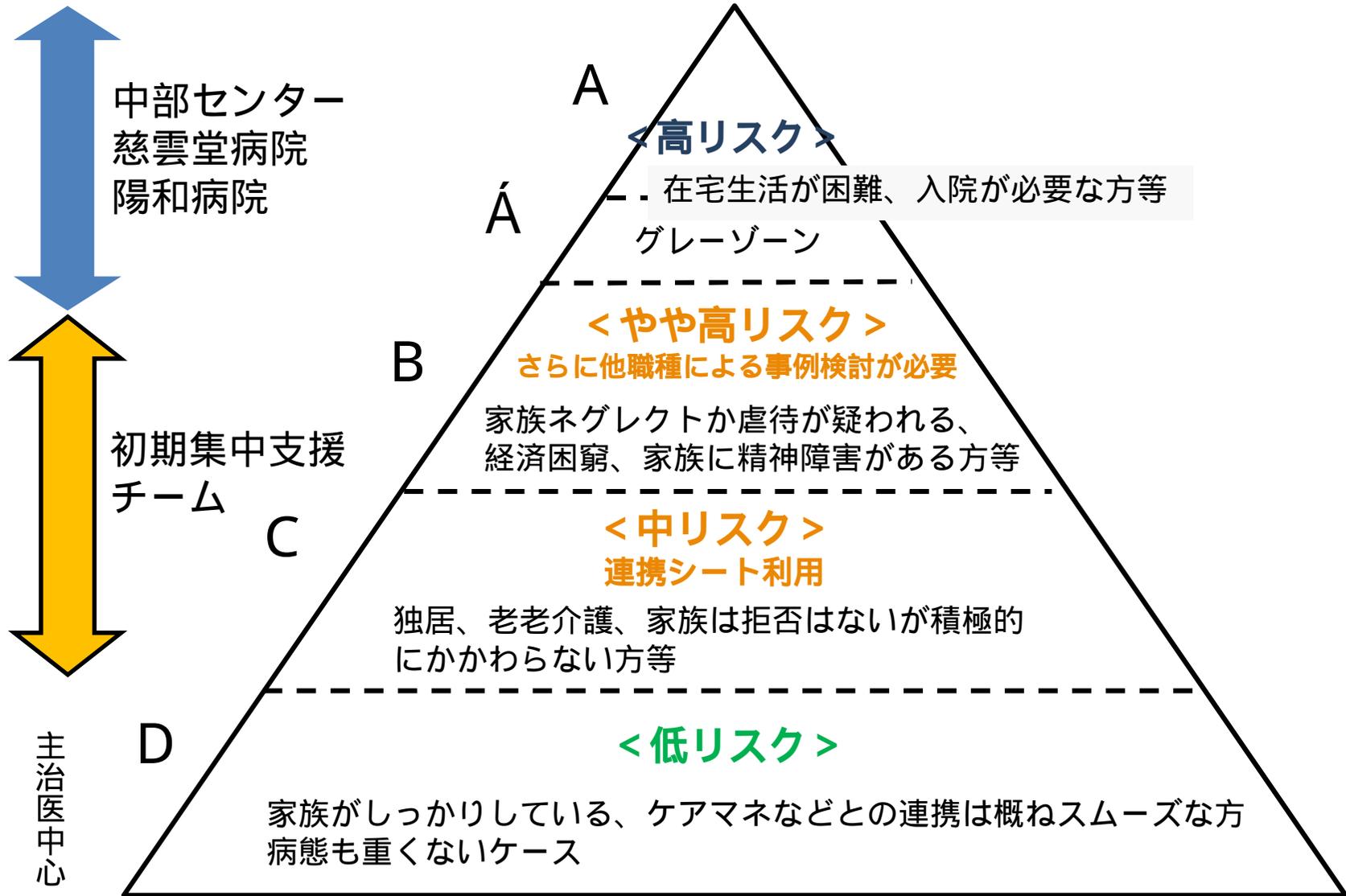
注：平成25年からのオレンジプラン(認知症国家戦略)にて厚生労働省が示した循環型の認知症在宅療養のイメージ図

# 平成30年度認知症専門相談(認知症初期集中支援推進事業)フロー図



DASC- (Dementia Assessment Sheet for the Community-based Integrated Care System) 「地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシート」  
認知症初期集中支援チームの取組において推奨されている認知機能と生活機能を総合的に評価できる評価方法

# 認知症相談機関ごとの主な対象者



# 地域包括支援センターにおける認知症相談実績

・平成30年度実績 地域包括支援センター25か所  
認知症相談件数 計 延 6,947件

(内訳) 複数回答

相談者	計
本人・家族・親族	3,579件
ケアマネジャー	1,216件
医療機関	598件
介護サービス事業者	362件
その他	736件



相談内容	計
医療に関する相談	1,135件
入院に関する相談	481件
症状および対応に関する相談	2,181件
生活機能障害	710件
生活支援・介護保険サービス	2,060件
権利擁護に関する相談	791件
その他	649件



相談内容の調整先	計
センターによる継続支援	2,703件
専門相談の利用、DASC実施	193件
<b>医療機関(専門病院)</b>	<b>470件</b>
医療機関(かかりつけ医)	345件
医療機関(その他新規紹介)	158件
ケアマネジャー	921件
介護保険サービス	912件
区福祉サービス	285件
権利擁護事業	218件
その他	571件

DASC- (Dementia Assessment Sheet for the Community-based Integrated Care System) 「地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシート」  
認知症初期集中支援チームの取組において推奨されている認知機能と生活機能を総合的に評価できる評価方法

# 地域包括支援センターと区内専門病院の連携実績

・平成30年度実績 慈雲堂病院  
陽和病院

延219件(都報告)  
94件(区委託事業報告)

陽和病院との連携(内訳)

対象者性別	計
男性	42人
女性	52人
年齢構成	計
60～64歳	3人
65～69歳	5人
70～74歳	13人
75～79歳	20人
80～84歳	31人
85歳以上	22人
世帯構成	計
独居	34人
高齢者のみ	31人
高齢者以外の家族と同居	28人
不明	1人

疾患名	計
認知症	60人
認知症疑い	6人
妄想性障害疑い	2人
せん妄	1人
非中毒性(精神疾患等)	8人
中毒性(アルコール)	1人
その他	2人
不明	13人

主訴	計
精査目的の(入院含む)相談	22件
薬剤調整等一時入院の相談	9件
認知症の進行	21件
BPSD	11件
精神症状	16件
生活環境の変化等からの愁訴	4件
在宅生活の限界	7件
その他(詐欺被害、アルコール等)	4件
対応(重複あり)	計
入院(医療保護入院含む)	36件
外来受診	26件
家族相談	20件
他の医療機関利用・連携等	21件
ショートステイ等施設利用	2件
その他(対応拒否、電話相談のみ等)	12件

## 慈雲堂病院連携ケース

**事例:** 60代後半、独居。親族なし。生活保護

入浴せず失禁もあり悪臭、家はごみ屋敷。記憶低下があり約束は忘れる。区役所がわからず来庁できない。一方、生活費は銀行で降ろせる。パチンコは電車で池袋まで毎日通うケース。

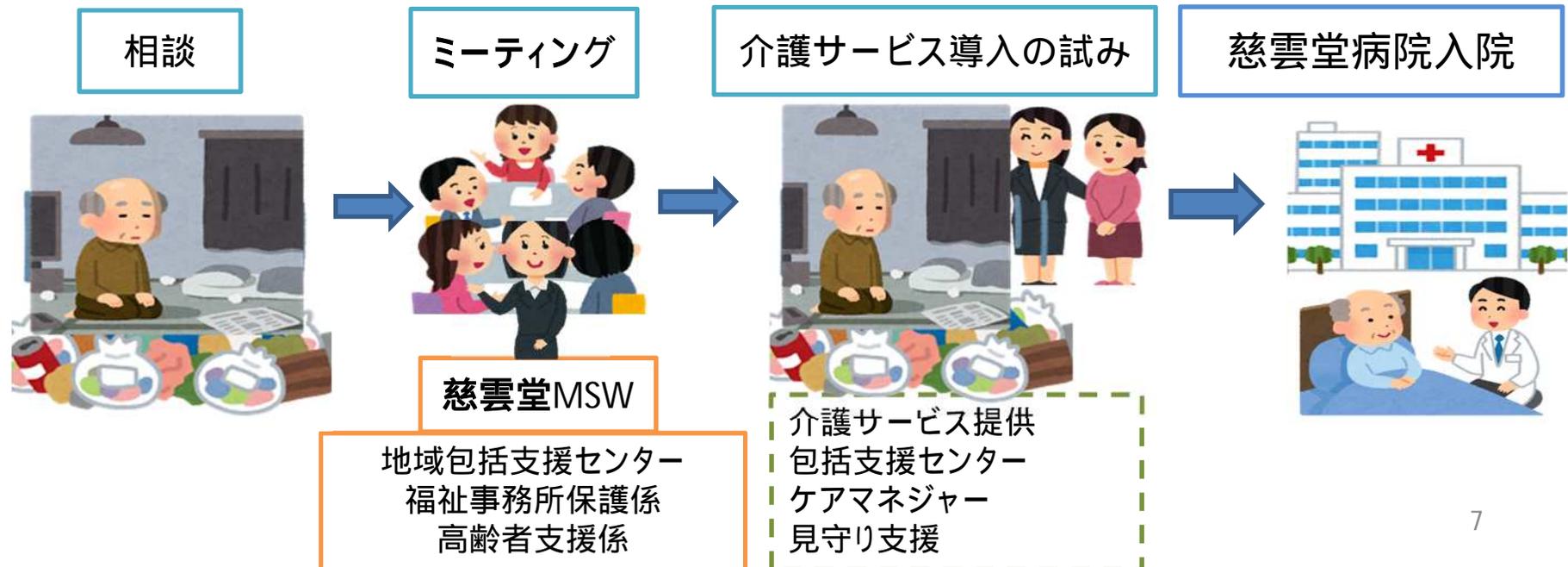
**相談者:** 受診を受けた認知症専門医より。

「在宅支援を継続するか、入院・入所の方針かを先に関係者で要検討」

**支援検討結果:** 「介護サービスを入れて、保清、通院、生活環境整備をまず試みる。」

**その後の対応 :** 6カ月間、介護サービス導入を試みたが、本人の拒否で、保清、環境整備はできず、煙草の焦げ跡が畳に増え、近隣・管理会社より「窓からゴミを投げ捨てる。」苦情が頻繁となる。

**その後の対応 :** 本年5月に認知症精査及び治療目的にて、慈雲堂病院に入院。



## 東京都中部精神保健福祉センター連携ケース

事例:70代後半、独居。

屋根が抜け落ち、崩壊が続く指定危険家屋に住み続け、もの忘れや意思疎通の困難さが増していた。骨折しても手術を拒否。自宅へのこだわり強く、建築課職員の接触を拒否。

相談者:近隣に住む友人と義理のいところ。区建築課職員。

対応:中部精神保健福祉センターのアウトリーチを依頼。見立ては認知症と統合失調症の疑いにて、精神科への紹介状をもらい、1週間後に区長同意による医療保護入院となった。

その後の対応:入院中に区長による後見等申立を行う。→後見人が自宅を解体、借地権解約、施設入所契約を行い、退院となった。

